

見捨てられた下前津町遺跡

山茶碗等資料について

和田 英雄

1 はじめに

1963年12月、名古屋市中区春日町75番地の5（第2図、上、K地点）における弥生時代後期の土器包含層の発見及び1965年3月から開始された名古屋地下鉄開通工事並びに、その後の都市再開発工事による縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の各期に亘る遺物の出土により、従来から古代遺跡の存在が希薄と考えられていた熱田台地北部東側縁に存在が確実となった。

名古屋地下鉄開通工事中に弥生土器の破片を「拾い」、遺跡の存在を連絡しても発掘調査をすることがなかった名古屋市教育委員会は、漸く1982年から2006年2月までの間、第1図に示されているごとく7次に亘る発掘調査を実施し発掘調査報告書（概要）も刊行されている。（注1）

とくに昭和58年3月1日から同年4月14日まで実施された富士見町遺跡第2次発掘調査においては、平安時代末期から鎌倉時代にかけての山茶碗等及び室町時代ころの瀬戸窯産の山茶碗等が破片であるが群を成して出土し遺物の総量はコンテナケース23箱分であるという。

名古屋地下鉄開通工事中においても第2次発掘調査地に近接する地点（第2図 印）から山茶碗等の破片が出土しており、そのうち31点について古代人68号に記録することとした。

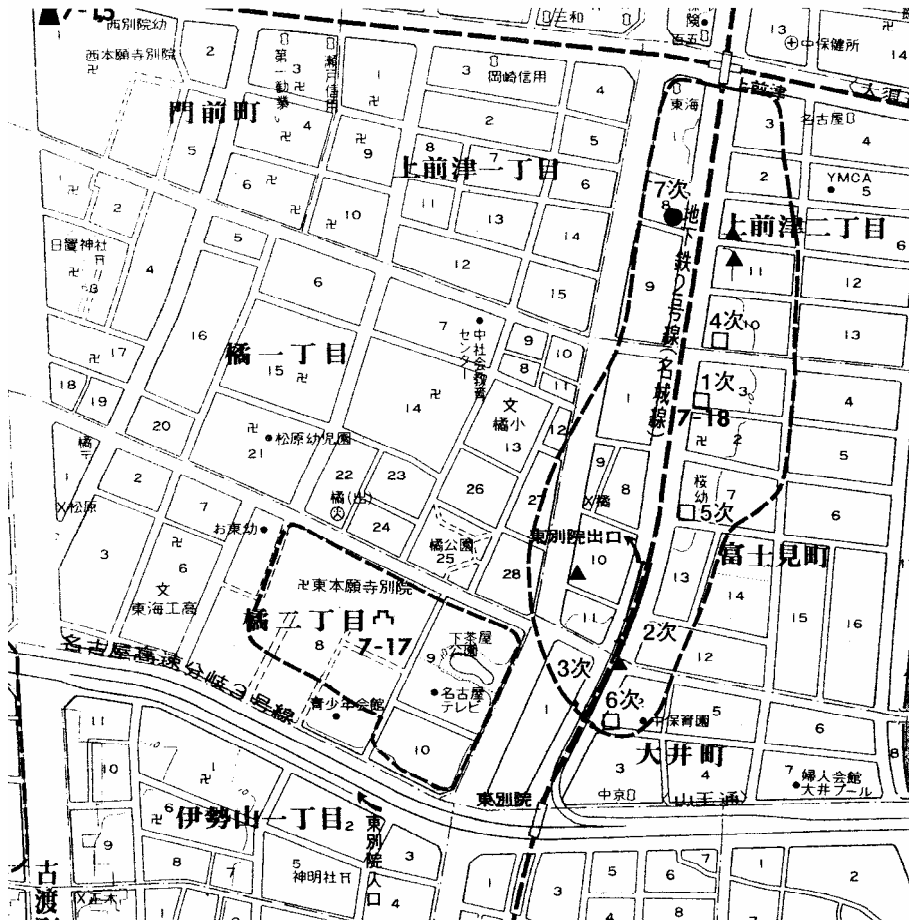
ところで1次から7次にわたる発掘調査報告書について私が入手することができたものは埋蔵文化財調査報告書55（富士見町遺跡第7次発掘調査）のみであり、他は「概要」報告書であるため市民に対しては販売されていない。名古屋市見晴台考古資料館に問い合わせると図書館にあるという。

私は富士見町遺跡関連の発掘調査「概要」報告書について愛知県知多市立中央図書館へ出向き当該報告書の閲覧を申し出ると図書館にはなく知多市歴史民俗博物館にあるという。

このことは、「概要」報告書が愛知県知多市立中央図書館でなく知多市歴史民俗博物館に送付されることによるものであるが、知多市歴史民俗博物館においては「資料複写申請書（知多市立中央図書館第6号様式）」によってコピーはできない。何故、図書館へ送付しないのか。

また名古屋緑区生涯学習センターの学習室の棚に東古渡町遺跡の数次に亘る発掘調査概要報告書が収納されていたのでコピーを申し出ると団体名あるいはグループ名を求められた。個人ではコピーできないとのことであった。一市民が生涯学習するために資料のコピーサービスを得ることもできない。

公共的な役割を何処で、どのような方法で担っているのか。

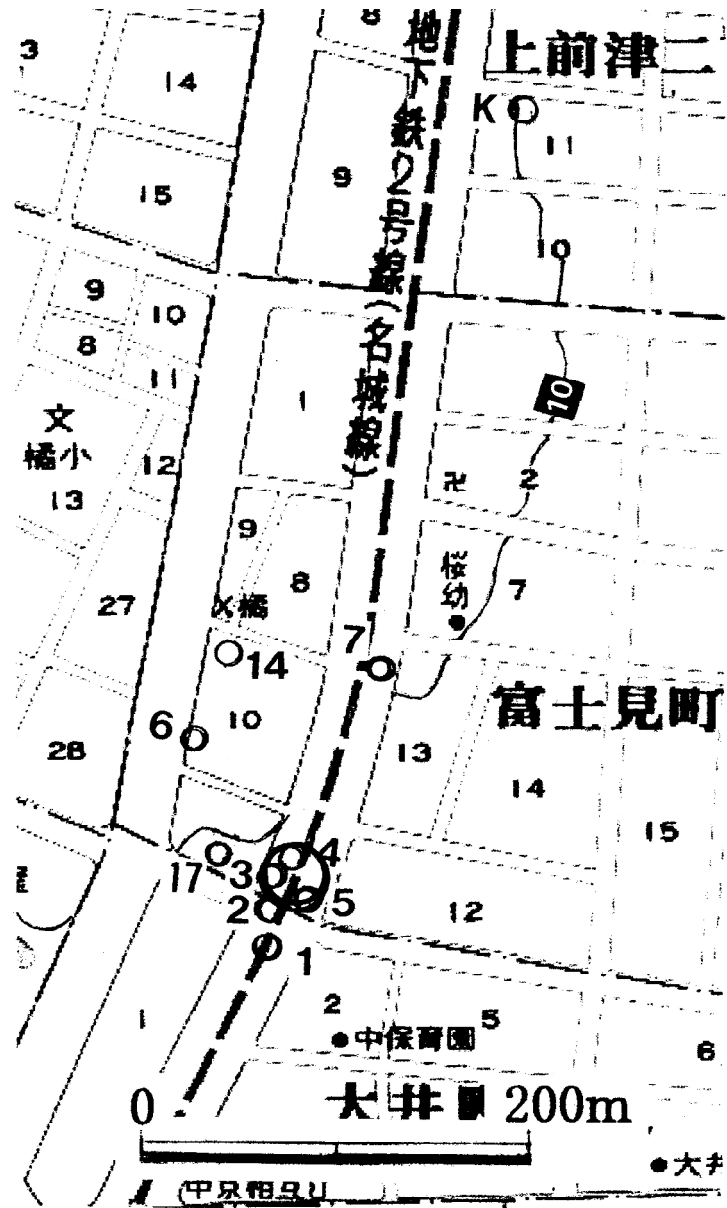


第1図

名古屋市教育局の調査地 1982（昭和57）年～2006年2月まで（印）
 （埋蔵文化財調査報告書55 富士見町遺跡（第7次）2007 名古屋市教育局より引用）

2 遺物出土地点

山茶碗等を「拾った」地点は、第2図に示した名古屋地下鉄開通工事現場において弥生後期の土器片を「拾った」2、3、4及び5地点の凡そ〇印の辺りである。この地点において通勤の行き帰り数日間に亘り山茶碗等の破片を「拾う」ことができた。



第2図

山茶碗等出土地点（弥生土器等が出土した2、3、4、5地点辺り）

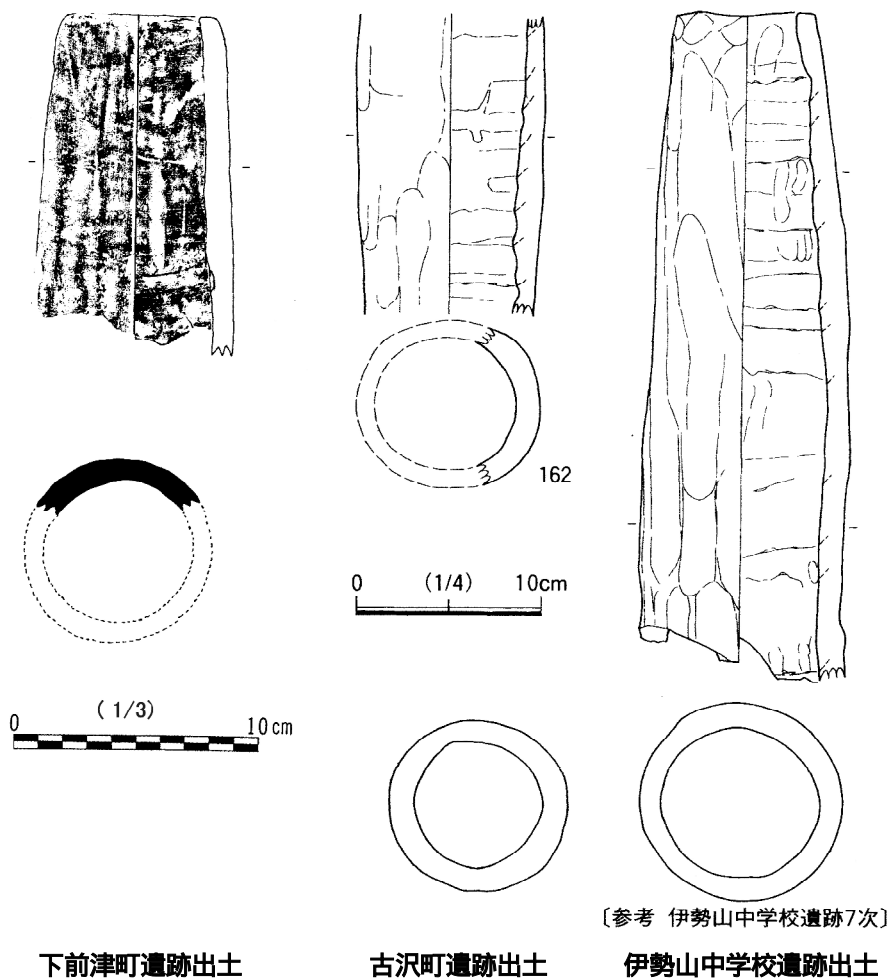
3 出土遺物

(1) 筒型土製品

山茶碗等と共に「拾った」須恵器・筒型土製品である。(第3図左) 熱田台地における類例の出

土は古沢町遺跡及び伊勢山中学校遺跡に見られ、いずれも土管として報告されている。(第3図右2例)(注3)

下前津町遺跡出土例は既出土例に比較して小型であり1/3に縮尺して比較することができる。復元径は約8cmであり外面は削り痕が見られ自然釉も確認できる。内面は粘土の継ぎ目の痕や形成時の絞り皺も見られる。



第3図

(右2例は、埋蔵文化財調査報告書50 古沢町遺跡(第3次・第4次) 2004 名古屋市教育委員会より引用)

(2) 山茶碗(小碗)、小皿

拾った山茶碗、小皿について器形が復元可能なものは、第4図、1、8、9、4、14、第5図26～29である。

1は器高6.4cm、口径17.8cm、台径7.6cmである。体部は緩やか曲線を呈して口縁部が反する形状である。高台は断面三角形を呈し撫で調整が行われているが糸切痕は見られる。

8は器高5.2cm、口径15.8cm、台径7.0cmである。体部は直線的に立ち上がり口縁部が僅かに外反する形状である。口縁端部内面一部に自然釉が見られる。「拾った」時点では内面全体に皮膜状の付着物(炭化物あるいはタール状物質)が見られたが時間経過とともに付着物が剥離し、その結果、内面観察が可能となり「見込み」に摩滅痕を認めることができた。当初は灯明皿(碗)と考えていたが口縁部周辺のみ付着でもない。山茶碗の用途が推定できる資料である。

(注2)

9は器高5.0cm、口径16.1cm、台径7.5cmである。体部が中ほどにおいて内反する形状である。

4は器高3.6cm、口径11.3cm、台径5.3cmである。小碗の器形を呈し口縁部が僅かに外反する形状である。

14は器高2.5cm、口径9.0cm、台径4.4cmである。小碗の器形を呈し口縁部が外反する形状である。

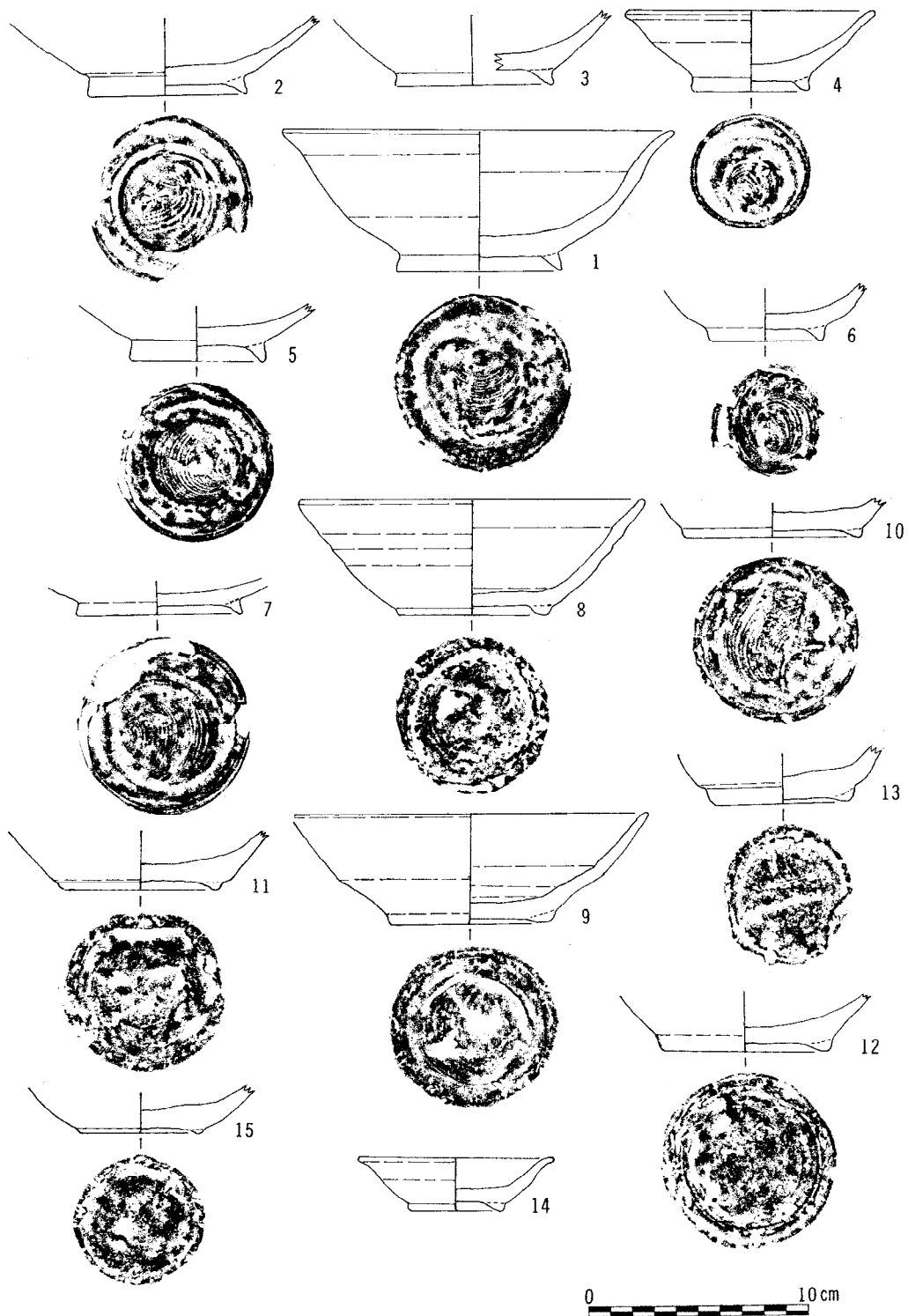
小皿4点があり計測値は以下のとおりである。

26は器高1.5cm、口径9.1cm、底部径5.4cmである。底部に糸切痕が見られる。

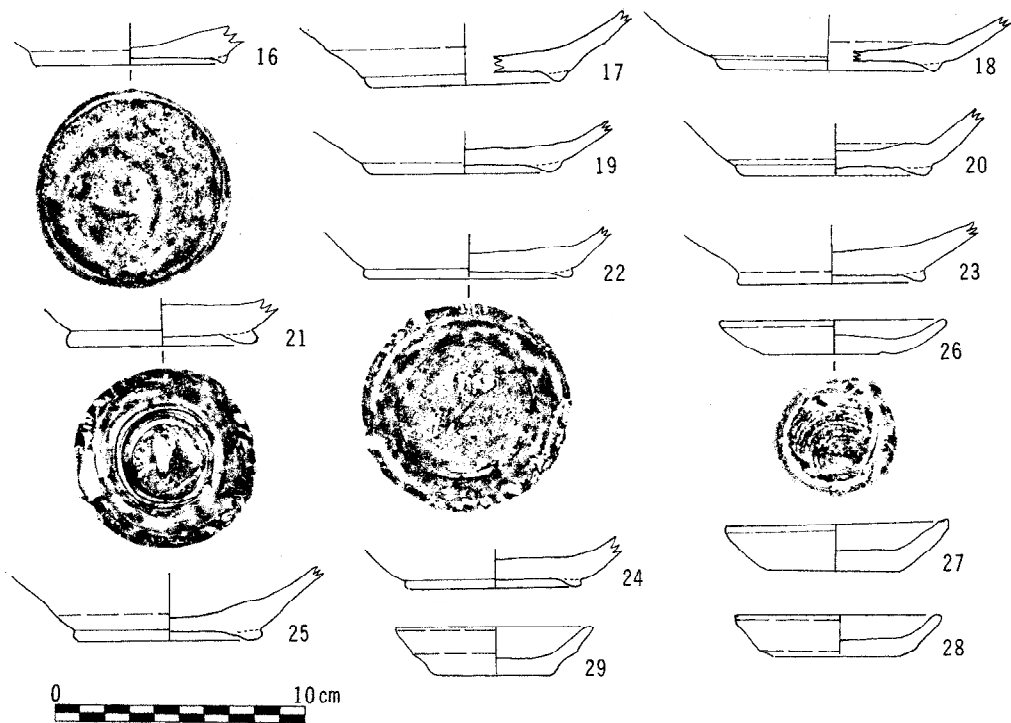
27は器高1.8cm、口径8.9cm、底部径5.5cmである。内面には黄褐色の皮膜状付着物が見られる。

28は器高1.7cm、口径8.3cm、底部径5.2cmである。

29は器高2.0cm、口径7.7cm、底部径5.0cmである。口縁端部内面に自然釉、底部に糸切痕が見られる。



第4图

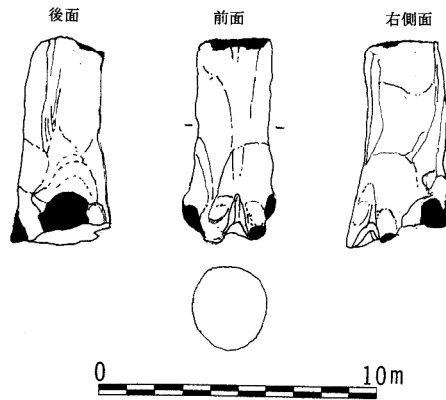


第5図

ところで図示した資料の胎土等の観察により、産地について13世紀南部系山茶碗、猿投窯産、瀬戸窯産、美濃窯産の区別が可能であるが、浅学な私にとっては難解であり正確に識別することはできない。ただ名古屋市地下鉄開通工事中に工事現場から「拾った」資料には、山茶碗等中世遺物も存在することを報告したかったのである。

(3) 動物足型土製品

山茶碗と伴に「拾った」土製品(第6図)である。胎土は砂粒が混じる山茶碗と同質であり表面は灰色を呈している。欠損(黒色部分)があるが1指~5指を確認することができる。偶蹄類(イノシシ)の四肢の一部と考えている。残存長7.2cm、径は3.0cmである。



第6図

4 おわりに

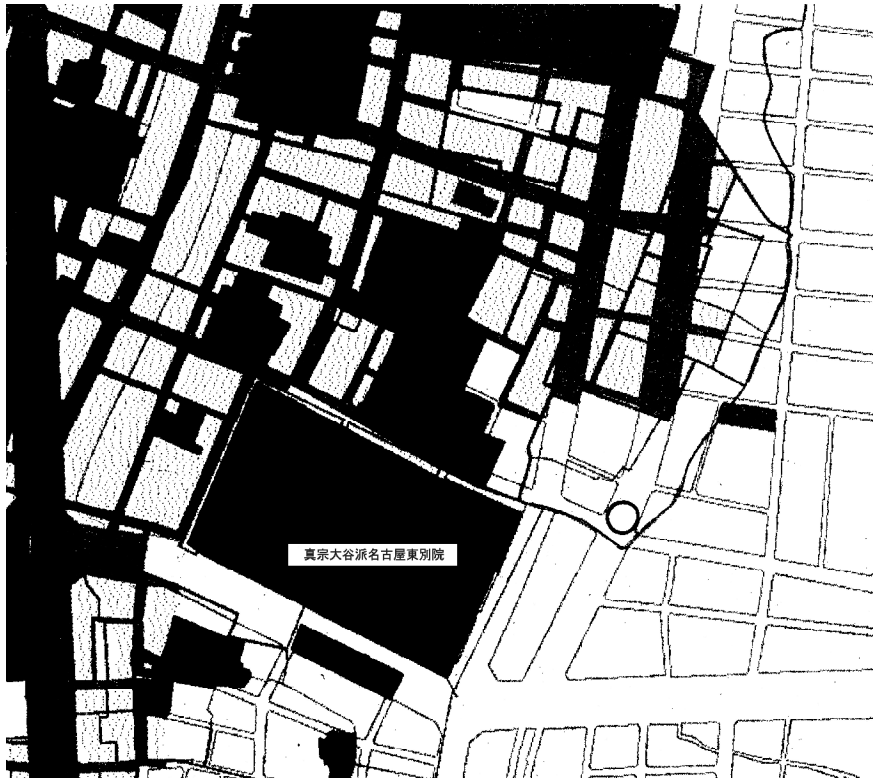
はじめに述べたとおり名古屋市教育委員会は漸く 1982(昭和 57)年から名古屋市中区富士見町(下前津町遺跡)地内においてマンション建築等に際し事前調査を実施するようになった。

山茶碗等を「拾った」地点に近接する場所において名古屋市見晴台考古資料館学芸員が担当する富士見町遺跡発掘調査会が実施した富士見町遺跡第 2 次発掘調査にあつては山茶碗の破片が群をなして出土した。私も発掘調査現場を見学して山茶碗の破片の夥しい出土量に佇立した。知多市歴史民俗博物館で目を通すことができた概要(注 1、第 2 次)によれば山茶碗等を含む遺物の総量はコンテナケース 23 箱分であると報告されているが遺物の実測図がない。今回報告する山茶碗等との関連はいかなものか。

今回、報告するコンテナケースの底に散らばっている僅か 31 点の資料が該時期の居住域から出土したものか発掘調査が実施されなかったので言及できない。山茶碗等を拾った場所を弘化 4 (1847)年頃の下前津町並み図(第 7 図)に示したが、過去に標高約 10m の熱田台地縁辺においては、真宗大谷派名古屋東別院関連施設の工事(名古屋御坊本御堂が 1702 年完成)あるいは享保年間、藩主徳川宗治の振興策による不二見廊が生まれ(1732 年開設)、明治に至るまで名古屋第一の風流郷であり、台地端まで及び別荘家屋建築に伴う地形変更等により台地上から流入した集積遺物の一部であると考えている。

地下鉄工事中に露出した土層位の所見では、黒土層が約 15 度前後の傾斜で矢板の間から沼地性堆積物が露出する低地まで続いている状況を観察することができた。

<http://park19.wakwak.com/~wadakouko/27.index.html> を参照願いたい。



第7図

弘化4(1847)年頃の名古屋城下復元城下図

(名古屋市博物館のホームページ、名古屋城下デジタル復元地図より引用、加筆作成)

最後に新編名古屋市史、考古1が2008年3月に刊行され、5月には販売されるという。私は古代人65号(2005年)、古代人66号(2006年)及び67号(2007年)に見捨てられた下前津町遺跡を記録してきたが、市史に描かれる下前津町(富士見町)遺跡像を見極めたい。

注

- 1 昭和57年度埋蔵文化財発掘調査概要報告書 昭和58年 名古屋市教育委員会
 富士見町遺跡第2次発掘調査の概要 1983年 富士見町遺跡発掘調査会
 富士見町遺跡発掘調査概要報告書 1985年 富士見町遺跡調査会
 富士見町遺跡第4次発掘調査の概要 1992年 名古屋市教育委員会
 富士見町遺跡第5次・白川公園遺跡第4次 2002年 名古屋市教育委員会
 富士見町遺跡第6次発掘調査報告書 2006年 名古屋市教育委員会
 埋蔵文化財調査報告書55 富士見町遺跡(第7次) 2007年 名古屋市教育委員会

- 2 武部真木 2006. 3 山茶碗の用途をめぐって―摩滅痕の分析から― 『研究紀要』第7号 設立20周年記念論集 財団法人、愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
- 3 埋蔵文化財調査報告書 50 古沢町遺跡(第3次・第4次) 2004年 名古屋市教育委員会

**発掘調査による富士見町遺跡(下前津町遺跡)出土遺物の量である。
(報告書による)**

富士見町遺跡第2次発掘調査の概要 1983年 富士見町遺跡発掘調査会
コンテナケース 23箱分

富士見町遺跡第6次発掘調査報告書 2006年 名古屋市教育委員会
コンテナケース 3箱分

埋蔵文化財調査報告書 55 富士見町遺跡(第7次) 2007年 名古屋市教育委員会
コンテナケース 29箱分